

平成27年度  
川崎市子ども・若者実態調査  
報告書

平成27年10月

川崎市

## はじめに

子ども・若者を取り巻く社会環境は、情報化・都市化の進展により、価値観や雇用環境の多様化を伴いながら急激に変化し、その生活や行動に様々な影響を与えています。また、ICTの発達・普及や、いじめ、不登校、ニート、ひきこもり等の困難を抱える者の増加、子どもの貧困を取り巻く問題、重大な犯罪被害の発生など、子ども・若者をめぐる諸問題は、ますます多岐にわたっています。

川崎市におきましては、平成21年に改訂した「川崎市青少年プラン」に基づいた青少年施策を推進してまいりましたが、今年度がプランの終期となっていることから、社会参加に困難を有する子ども・若者をはじめ、全ての子ども・若者の育成支援を推進していくための指針となるものを今年度中に策定する予定です。

今回実施しました調査は、青少年施策を推進する上での基礎資料を得ることを目的として、昭和60年度から5年毎に「川崎市青少年意識調査」を実施してきたもので、今回から調査の名称を「子ども・若者実態調査」と変更し、対象年齢の上限を24歳から30歳に引き上げ、20代の若者に対しても広く調査を実施しました。また、内容については、若者に広く普及しているSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の利用に関する設問を、今日的なテーマとして新たに設定しました。

本報告書が子ども・若者施策の一助として、皆様に広く御活用いただければ幸いです。

おわりに、調査に御協力いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

平成27年10月

川崎市市民・こども局こども本部長 小池 義教

# 目 次

## 第 1 部 調査の概要

|                  |   |
|------------------|---|
| 第 1 章 調査実施の概要    | 3 |
| 1 調査の目的          | 3 |
| 2 調査設計と回収状況      | 3 |
| 3 回答者のプロフィール     | 4 |
| 4 調査の時系列比較       | 7 |
| 5 調査結果を見る上での注意事項 | 7 |
| 第 2 章 調査結果の概要    | 8 |

## 第 2 部 調査結果の詳細

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 第 1 章 子ども・若者の生活       | 23 |
| 1 居住地                 | 23 |
| （1）居住地の好意度            | 23 |
| （2）居住地が好きな理由          | 25 |
| （3）居住地がきれいな理由         | 27 |
| （4）定住意向               | 29 |
| 2 地域での活動              | 31 |
| （1）地域活動への参加           | 31 |
| （2）参加している地域活動         | 34 |
| （3）地域活動に参加していない理由     | 35 |
| 3 ボランティア活動            | 37 |
| （1）ボランティア活動への参加       | 37 |
| （2）参加しているボランティア活動     | 40 |
| （3）ボランティア活動に参加していない理由 | 41 |
| 4 学校・職場でのグループ活動       | 43 |
| （1）部活動・団体活動への参加       | 43 |
| 5 日常生活                | 45 |
| （1）自由な時間の有無           | 45 |
| （2）自由な時間の過ごし方         | 47 |
| 6 ニュースへの関心            | 51 |
| （1）ニュースをみる頻度          | 51 |
| 7 携帯電話・パソコンなどの利用状況    | 53 |
| （1）インターネット接続機器の利用状況   | 53 |
| （2）パソコン・携帯電話などの利用目的   | 55 |
| （3）携帯電話での 1 日あたりの通話時間 | 56 |

|                                |     |
|--------------------------------|-----|
| (4) 1日あたりのメール送信回数              | 58  |
| (5) 1日あたりのSNS利用時間              | 60  |
| (6) インターネット利用によるトラブル被害経験の有無、内容 | 63  |
| (7) インターネット利用によるトラブル被害時の相談相手   | 65  |
| (8) コミュニティサイトへのアクセス経験          | 67  |
| (9) フィルタリングソフトの認知状況            | 69  |
| (10) フィルタリングソフトの利用状況           | 71  |
| (11) フィルタリングソフトの認知経路           | 73  |
| 第2章 子ども・若者の意識                  | 74  |
| (1) 現在の関心事                     | 74  |
| (2) 幸福感                        | 76  |
| (3) 自己肯定感                      | 78  |
| (4) 理想とする生き方                   | 80  |
| (5) 仕事を選ぶ際、重視すること              | 81  |
| (6) 学校や職場の楽しさ                  | 83  |
| (7) 学校・職場が楽しくない理由              | 85  |
| (8) 就職する上で有利になると思うこと           | 87  |
| (9) 転職についての考え方                 | 89  |
| (10) 結婚についての考え方                | 91  |
| (11) 結婚したほうがよい理由               | 93  |
| (12) 結婚しなくてもよい理由               | 95  |
| (13) 社会に対する満足度                 | 97  |
| (14) 社会に対する不満の理由               | 99  |
| (15) この1年間にされた嫌なこと             | 100 |
| (16) 悩みごとの相談相手                 | 101 |
| (17) 「いらいらする」「むかつく」と感じるこゝと     | 102 |
| (18) 「いらいらする」「むかつく」と感じるこゝと     | 104 |
| (19) 非行する人への理解度                | 105 |
| (20) 非行の原因                     | 107 |
| (21) 青少年の健全育成に大切だと思ふこゝと        | 108 |
| 第3章 行政施策の認知度、要望                | 109 |
| 1 行政施策の認知度、要望                  | 109 |
| (1) 施設の認知度、利用状況                | 109 |
| (2) 青少年施設への要望                  | 113 |
| (3) 青少年や若者の政策に望むこゝと            | 115 |
| 2 自由回答                         | 118 |
| (資料) 使用した調査票                   |     |